

単元名：ひき算

育成を目指す資質・能力：A (2) 加法・減法
 ア 知識及び技能
 イ 思考力・判断力・表現力等
 学びに向かう力、人間性等

ア (ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。
 (イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
 (ウ) 1 位数と 1 位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。
 (エ) 簡単な場合について、2 位数などについても加法及び減法ができることを知ること。
 イ (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。
 (学び) 数量や図形に親しみ、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養うこと。

※赤字部分は個別最適な学び、青字部分は ICT (クラウド) の活用に関する部分

時	問題 (活動)	めあて・課題	学習内容・流れ	まとめ・ゴールの姿	引き出したい振り返り (※下線部は働かせたい見方・考え方)	教員の振り返り (授業後)
1・2	どんぐりが 13 あります。9 つかいました。どんぐりは、なんこのこっていますか。	どうやってけいさんすればいいのかな？	① 立式する (※根拠を全員が説明できるようにする) ② ブロックを操作して答えを求める ③ 9 の取り方 (2 通り) を確かめ、計算の仕方を考える ④ 計算の仕方をまとめ、説明する	13-9 のけいさんは、13 を 10 と 3 にわけて 10 のまとまりから 9 をとって、のこりの 1 と 3 をたすとけいさんできる。(9 は 3 と 6 なので、3 のばらと 10 のまとまりから 6 をとるほうほうでもけいさんできる。) ※本時では減加法に重きをおき、減々法は軽く触れる程度にする。 ※子どもの状況によっては、第 6・7 時 (減々法の計算の仕方) を第 3・4 時にする流れも考えられる。	今日は 13-9 の計算をしました。3 から 9 はひけないので、最初はどうやって計算するのか分からなかったけど、先に 10 のまとまりから 9 をひいて、残りの 1 と 3 を足せば 4 になることが分かりました。計算する時は、ひかれる数をさくらんぼにして 10 といくつにすればよいことが分かりました。くり下がりひき算はこれまでのひき算より難しかったです。	
3	男の子が 13 人、女の子が 8 人います。ちがいはなんですか。	(ひくかずが 8 になっても) まえとおなじほうほうでけいさんできるかな？	① 立式する (※根拠を全員が説明できるようにする) ② 前時の式との違いを確認する ③ ブロックを使って計算の仕方を考える ④ 計算の仕方をまとめ、説明する ⑤ 適用問題に取り組む	ひくかずが 8 のけいさんも 9 のけいさんとおなじように、10 のまとまりからひくほうほうでけいさんできる。	今日はひく数が 8 の計算をしました。8 の時も 9 の時と同じように 10 のまとまりから 8 をひいて、後から残りを足す方法でさくらんぼをかくと計算できました。ひく数が 9 でも 8 でも同じ方法で計算できたので、7 や 6 になってもきっと同じ方法で計算できると思います。	
4・5	① 12-7 ② 14-6	ひくかずが 7 や 6 になってもまえとおなじほうほうでけいさんできるかな？	① ブロックを操作しながら計算の仕方を説明し、答えを求める ② 適用問題に取り組む ③ 適用問題が終わった子は、ひく数を自由 (5、4 など) に変えるなどしながら問題をつくり、取り組む【個別最適】	ひくかずが 7 や 6 になってもいままでとおなじように 10 のまとまりからひくほうほうでけいさんできる。	今日はひく数が 7 や 6 の計算をしました。やっぱりこれまでと同じようにさくらんぼをかいて 10 のまとまりからひく方法で計算できました。ぼくはひく数を 5 や 4 に変えて計算をしてみたけど、全部同じ方法で計算できました。14-4 や 15-4 のように繰り下がりがなくて簡単な問題もできました。	
6・7	子どもが 12 人あそんでいます。3 人かえると、なん人になりますか。	いままでとちがうほうほうでもけいさんできるかな？	① 立式する (※根拠を全員が説明できるようにする) ② ブロックを操作しながら計算の仕方を説明し、答えを求める ③ 3 の取り方がもう 1 つ (減々法) あったことを確かめ、計算の仕方を考える ④ 計算の仕方をまとめ、説明する ⑤ 適用問題に取り組む	ばらからひいて、さらにひくほうほうでもけいさんできる。3 は 2 と 1 なので、12 から 2 をひいたあと、さらに 1 をひいて 9 になる。	今日は 12-3 の計算の仕方を考えました。最初は今まで通り、10 のまとまりからひく方法で計算していたけど、前に A さんがやっていた、ばら (2) から取る方法でやると、12 じゃなくて 3 がさくらんぼになりました。方法が 2 つあったので、どっちの方法がやりやすいかいろいろな問題で試してみたいです。	
8	(計算カード)	ひきざんをマスターしよう！	① 被減数が 13 の計算カードを並べ、きまりを見つける ② すべてのカードを広げて並べてみる ③ 並べたカードを見て、きまりを見つける	(例) カードをならべると、たしざんのときとおなじようにかいたんみたいになる。ひくかずが 1 小さくなるとこたえが 1 大きくなる。おなじこたえのカードがななめにならんでいる。こたえが 9 になるカードがいちばんおおい。	今日は計算カードをならべてきまりを見つけました。ひかれる数が同じカードを並べると、前にやったたし算やひき算と同じように階段みたいになりました。ひく数が 1 小さくなると答えが 1 大きくなるというきまりも前と同じでした。A さんが、繰り下がりがあるひき算のカードが一番多い答えは 9 だと言っていたので、おもしろい発見だと思いました。私は一番少ない答えを調べると、2 が 1 枚だけということが分かりました。	
9~12	(計算カード)	ひきざんカードであそぼう！	① 計算カードをする ② 大きさ比べ遊びをする ③ カード取り遊びをする ④ 計算しりとりをする ※1 回目は全員でルールを確認してから遊ぶが、慣れてきたら計算カードやゲームを自分で選んで取り組めるようにする【個別最適】			
13	(適用問題)	ひきざんをマスターしよう！	① 適用問題に取り組む ② 適用問題が終わった子からそれぞれ自分が選んだ活動に取り組む【個別最適】			

ブロック操作では、ひいた数を裏返させることで取り方の違いが分かるようにする。本時では、操作したブロックを写真に撮って教師に提出させ、減加法から取り上げる。

操作したブロックを写真に撮って、クラウドで共有する。(他者参照)

操作したブロックを写真に撮って、クラウドで共有する。(他者参照)

第 1 時の減々法の操作をした写真も見せながら想起させる。

並べたカードを写真に撮って、その写真にみつけたきまりを書き込ませ、共有する。

それぞれがやりたい活動をクラウドで共有して可視化しておくことで、子どもが自分たちでグループを組めるようにする。

単元ゴールの姿：
 ・11~18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算が確実にできる。
 ・11~18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を 10 のまとまりに着目して考え、操作や言葉などを用いて説明することができる。
 ・減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。(※これまでの加法及び減法の学習から継続して)
 ・日常生活の問題を減法を活用して解決することができる。(※これまでの加法及び減法の学習から継続して)